

## 平成26年 市職員への年頭訓示

みなさん、新年明けましておめでとうございます。

新しい年を、みなさんも清々しい気持ちで、迎えられたことと思います。

今年は木津川市発足から8年目を迎えますが、職員がそれぞれの持ち場で力を合わせて職務に取り組んで戴いたお陰で、これまで無事に市政を進めてこられたと感謝をいたしております。

これからも、自らを研鑽し続けるだけでなく、市民のために行動できる職員になって戴きたいと思います。

さて、昨年を振り返りますと、9月の台風18号はじめ、多くの火災が発生するなど、災害の多い1年でした。

特に台風18号の被害では、災害に対する備えについての難しさを痛感いたしました。

しちじずいしん ことば  
「七事隨身」の詞がありますが、何事にも準備を怠ることなく、減災に向けての取り組みに努めると共に、「市民のために行動するとは何なのか」との思いを持って、業務を進めて戴きたいと思います。

私は、合併以来、未来の木津川市の礎を築くとの使命感を持って市政を進めて来ましたが、長年の懸案であるクリーンセンターの建設をはじめ、城山台地区の「愛光みのり保育園」の開園や、「城山台小学校」の開校、さらには、「木津中学校の全面改築工事」に着手することができました。

また今後も「棚倉小学校の建替え工事」、「恭仁小学校の耐震補強工事など、子ども達の教育や保育に関する施設整備を進めますが、平成28年度からは合併算定替えにより、地方交付税が段階的に減額されることから、第2次行財政改革推進大綱の行動計画に基づき、行財政改革や経費節減の取り組みをより一層進める必要があります。

皆さんには、多くの課題に取り組んで戴いている中ではありますが、今一度、所属の事務事業について、同じサービスや同様の行政効果を発揮する為のよりよい方法や、進め方がないか検討して戴き、「子や孫の世代に健全財政のまち」を引き継ぐという、市民の皆様の負託に応えて戴きたいと思います。

さらには、社会の動きをつかみ、市の施策を十分理解し、木津川市全体を考え職務に取り組んでください。

市民は、皆さんの職務に対する姿勢を注視していますので、市のイメージや評価の向上に繋がる行動を心がけて戴きたいと思えます。

私自身も、平成26年度は市政をお預かりした2期目の締めくくりの年となりますことから、今一度 気を引き締めて職責を果たして参りたいと考えております。

今年は、午年でございますが、古来より馬は縁起がよい動物といわれており、中でも馬の字を反転させた「左馬」は招福のシンボルとされております。

その由来は、馬には右から乗ると転ぶという習性があるため、必ず左側から乗ることからきており、「左馬は倒れない」として、人生を大過なく過ごせるという意味が込められております。

結びに、今年が皆さんにとりまして、左馬の言われのように大過なく過ごせる幸多い年になりますことと、木津川市の更なる飛躍を祈念いたしまして、年頭の訓示といたします。

平成26年1月6日

木津川市長 河 井 規 子